

第 10 回分離技術国際会議 (ICSST14) 発表募集

The 10th International Conference on Separation Science and Technology

実行委員会 委員長 田 門 肇
プログラム委員会 委員長 大 嶋 寛
プログラム委員会 委員長 日 秋 俊 彦

1. はじめに

日本と韓国の分離技術に関する研究者が、相互の研究の発展と交流を深めることを目的として、日本側は分離技術会、韓国側は韓国化学工学会の共催で、1987年に第1回日韓合同分離技術シンポジウムが韓国の慶州で開催されました。その後、3年おきに日韓合同分離技術シンポジウムが開催されてきましたが、第7回(2005年)からは、「日韓合同分離技術国際会議」という名称に変更されました。さらに第8回(2008年)では両国の合意の上で「日韓」も除いて、「分離技術国際会議」“International Conference on Separation Science and Technology (略記 ICSST)”となっています。

前回の第9回は2011年11月3日(木)から5日(土)まで韓国の済州島の済州グランドホテルで開催されました。4件の基調講演に加えて、相平衡/輸送物性、蒸留/吸収、晶析、吸着、膜分離/粒子流体系分離、抽出/超臨界流体技術、バイオ分離、エネルギーと環境のための新しい分離プロセスと材料の8セッションで約400件の発表があり、熱のこもった活発な討論がなされました。

第10回分離技術国際会議を2014年10月30日(木)から11月1日(土)までの3日間、奈良県新公会堂で開催いたします。

会議会場として奈良県新公会堂の能楽ホール、レセプションホール、会議室などを、バンケット会場としてホテル日航奈良を使用します。

10月30日(木)は14時から参加登録を開始し、夕方からセッションチェアマン会議を能楽ホールの楽屋で、歓迎レセプションをレセプションホールで行います。このレセプションホールは翌日からはポスター発表会場となります。

10月31日(金)の午前に開会式が能楽ホールで開催されます。また、能楽ホールは基調講演の会場となります。舞台にスクリーンを設置して学会会場とする点がこれまでの学会会場と趣が異なり、参加者に喜んでいただけるものと考えています。午後には4会場での口頭発表とレセプションホールでのポスター発表が行われます。特にレセプションホールを利用したポスター会場は広く、ゆったりと十分に議論を深めていただけると確信しています。夕方からは、バンケットがホテル日航奈良で予定されています。

11月1日(土)の午前は、前日の午後と同様に口頭発表とポスター発表が行われます。また、発表件数が予定よりも多い場合は、午後も発表に使用することを考えています。

2. 第10回分離技術国際会議日程

| | |
|-------------------|--------------------|
| October 30 | |
| 14:00-18:00 | Registration |
| 18:00-19:00 | Chairmen's Meeting |
| 19:00-20:30 | Welcome Reception |
| October 31 | |
| 9:00-9:30 | Opening Ceremony |
| 9:30-11:45 | Plenary Lecture |
| 14:00-17:00 | Oral and Poster |
| 18:00-20:00 | Banquet |
| November 1 | |
| 9:00-12:00 | Oral and Poster |
| 12:00- | Wrap-up |

3. セッションオーガナイザーとチェアマン

A: Phase Equilibria/Transport Properties

Hiroshi Inomata* (Tohoku Univ.)

Yusuke Shimoyama (Tokyo Institute Tech.)

Shigeo Oba (Applied Thermodynamics and Physical Properties Co., Ltd.)

Yoshio Iwai (Kyushu Univ.)

B: Distillation/Absorption

Hideki Mori* (Nagoya Institute Tech.) /**Susumu Nii*** (Nagoya Univ.)

Toshihiro Wakabayashi (Toyo Eng. Corp.)

Kazuya Goto (RITE)

C: Crystallization

Hiroshi Takiyama* (Tokyo Univ. of Agriculture and Technology)

Izumi Hirasawa (Waseda Univ.)

Kouji Maeda (Univ. of Hyogo)

Tomomichi Hino (Mitsubishi Rayon Co., Ltd.)

D: Adsorption

Akiyoshi Sakoda* (Univ. of Tokyo)

Kazuyuki Nakai (BEL Japan, Inc.)

Akio Kodama (Kanazawa Univ.)

Akihiko Matsumoto (Toyohashi Univ. of Technology)

E: Membrane Separation/Fluid-Solid Separation

Hideto Matsuyama* (Kobe Univ.)/Kazuho

Nakamura* (Yokohama National Univ.)

Mitsuru Higa (Yamaguchi Univ.)

Tomohisa Yoshioka (Hiroshima Univ.)

Takuji Shintani (Nitto Denko Co.)

Nobuyuki Katagiri (Nagoya Univ.)

Takanori Tanaka (Osaka Prefecture Univ.)

Masato Sumiya (Pall Corp.)

F: Extraction/Supercritical Fluid Technology

Motonobu Goto* (Nagoya Univ.)

Hirohisa Uchida (Shinshu Univ.)

Mitsuru Sasaki (Kumamoto Univ.)

Yoshiteru Horikawa (Jasco Corp.)

G: Bioseparation

Masahiro Goto* (Kyushu Univ.)

Shuichi Yamamoto (Yamaguchi Univ.)

Hiroshi Umakoshi (Osaka Univ.)

Tatsuya Oshima (Miyazaki Univ.)

H: New Separation Process & Materials for Energy & Environment

Akinori Muto* (Osaka Prefecture Univ.)

Norikazu Nishiyama (Osaka Univ.)

Tsutomu Ono (Okayama Univ.)

Akira Matsuoka (Kobe Steel, Ltd.)

*印はセッションオーガナイザー

4. 締切

| | |
|-------|----------------------|
| 7月31日 | 発表申込みおよびアブストラクト投稿の締切 |
| 8月31日 | 最終プログラムの決定 |
| 8月31日 | 早期参加登録の締切 |

5. 参加費

8月31日まで

| | |
|---------------------|---------|
| 本会正会員および法人会員 | 40,000円 |
| 協賛団体会員 | 40,000円 |
| 学生 | 20,000円 |
| 会員外 | 50,000円 |
| 同時入会 | 45,000円 |
| (分離技術会 平成26年度会費を含む) | |

9月1日以降

| | |
|---------------------|---------|
| 本会正会員および法人会員 | 45,000円 |
| 協賛団体会員 | 45,000円 |
| 学生 | 25,000円 |
| 会員外 | 55,000円 |
| 同時入会 | 50,000円 |
| (分離技術会 平成26年度会費を含む) | |

参加費は、バンケット代を含みます。

6. 発表申込み

発表方法は口頭発表またはポスター発表、使用言語は英語、募集論文の内容は以下の通りです。

- ◇各種分離技術および応用分野に関するオリジナルな論文あるいはデータ
- ◇新技術や新プロセスの開発に関する未完あるいは萌芽的な研究・アイデア
- ◇企業における環境調和型プロセスの構築、省エネルギー、省資源化、操作の効率化などを目的とした製造技術の改良や開発
- ◇その他、既存技術のビジネスに関するものや、既報の論文をまとめなおした研究報告など

本国際会議では、Proceedings は発刊せずに、Abstract を2ページ以内(図表を含む)としました。また、Abstract をUSBメモリーで出席者に配布します。以上がこれまでの分離技術国際会議と異なりますので、ご注意ください。

【論文発表の申し込み方法】

分離技術会ホームページからお申し込み下さい。
<http://www.sspej.gr.jp>

7. Abstract 執筆要領

- ◎言語：使用言語は英語とする。
- ◎用紙：原稿は A4 用紙を用い、マージンを上下および左右 25mm とし、Microsoft MS Word により作成する。本文は、間隔を 8mm あけた 2 段組みとする。
- ◎フォントおよびポイント：使用するフォント

は、”Times New Roman (TNR)”もしくはこれらに相当するフォントとする。論文題名は **12 pt**、著者名は **10.5 pt**、その他は **10 pt** とする。

- ◎ **長さ**：図表を含めて原稿は2頁以内とする。
- ◎ 原稿1頁目には、《論文題名》、《著者名》、《所属名》、《連絡先》を記載する。
- ◎ 原稿は MS Word 書式の原稿および PDF 形式の原稿を分離技術会の事務局に提出する。査読後受理もしくは訂正後受理等の連絡をするので、**最終原稿を MS Word および PDF 形式で分離技術会事務局に送付**する。PDF ファイルを提出した場合のみ Abstract 集 (USB メモリー) に収録する。

【各項目の書き方】：別紙作成例 (テンプレート) を参照下さい。

《論文題名》

- ◎ TNR 12 pt の大文字・太字を使用し、左右のマージンを等しくとり中央揃えとする。

《著者名》

- ◎ TNR 10.5 pt を使用し、中央揃えとする。空白行を上 に 2 行分、下に 1 行分設ける。
- ◎ 名、姓の順とし、最初の 1 文字だけを大文字とし、姓の肩に上付き数字で所属に対応する番号を付ける。また、Corresponding author の右肩に *印をつける。

《所属名》

- ◎ **イタリック体**の TNR 10pt を使用し、番号をつけ、著者に対応する所属名と住所を書く。
- ◎ 最後に Corresponding author の Fax 番号および E-mail アドレスを記載する。
- ◎ 本文との間に 2 行分の空白行をおく。

《本文》

- ◎ TNR 10 ポイントを使用し、行間を 1 行、段落前の空白を 6pt に設定する。
- ◎ 各段の始めに空白(indent)を設けない。

《見出し》大見出しと中見出しのみを使用する。
大見出し：大文字・太字で書く。本文は改行して書き始める。

中見出し：各語は太字とし、**始めの 1 文字のみ大文字**とする。本文は改行して始める。

例：**EXPERIMENTAL** 大見出し

Apparatus 中見出し

《図表類》原稿にペーストする。

図：図の表題および説明文は図の下に中央揃えとし、上下に空白を設ける。

写真：鮮明でコントラストがよいものをスキャナーで取り込む。その他は図に準ずる。

表：表およびタイトルとも左揃えとし、タイトルは表の上におく。表全体の上下に空白を設ける。

《式》

- ◎ 左端から式を書き始め (indent なし)、右端に小括弧を付けた式番号を書く。また、式の上下に十分な空白を設ける。

《引用文献》

- ◎ 本文中の引用文献番号はカギ括弧で示す。例：
[3], [3,4], [3-6]
- ◎ REFERENCES は原稿の最後におく。
- ◎ 表記形式は、作成例を参照のこと。

7. 会場案内

奈良県新公会堂

〒630-8212 奈良市春日野町 101

TEL 0742-27-2630 FAX 0742-27-2634

<http://www.shinkokaido.jp/>

会場アクセスなどの詳細は、プレビュー (分離技術, **44(1)**, 58 (2014)) をご覧ください。

多くの皆様に発表申し込みして頂きますよう実行委員会一同お待ち申し上げております。

